

ひき岩群国民休養地は、「砂岩」からなる奇岩群で「ヒキガエル」の群れが天を仰いでいるように見えることから「ひき岩群」と呼ばれています。

この国民休養地は、自然のしくみと不思議を観察や体験を通じて理解していただくための拠点となる場として整備されています。

指 定：平成2年6月15日

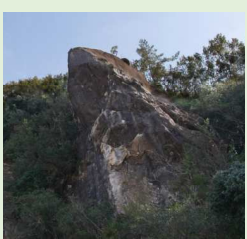
区域面積：107.7ha



ひき岩群は、田辺市稲成町にある岩山群で、景勝地として著名であるほか、特殊な生物の分布する地域です。東西1.5km・南北1.0km、標高は80mから150mの丘陵地で、南側はなだらかな斜面、北側は垂直の壁に近い岩山が並んでいます。構成する地質は、主として砂岩・礫岩からなる単斜構造で、この地層は新生代第三紀中新世（前期）（1800万年～1600万年前）田辺層群白浜層と呼ばれております。それが地殻変動によって南北方向に30度ほど傾き、泥岩が風化・浸食されやすいために層ごとに岩山が出っ張った形となりケスタ地形といわれています。こうした地層が天を仰ぐ大きなカエルの群れを形づくっています。



⑥ひき岩 蟾蜍岩（ひきいわ）は、高さが約45mあり、新生代中新世に堆積した「田辺層群」（およそ1,200~1,800万年前）の礫を含んだ厚い砂岩層でできています。この地層が約30度傾斜している形がカエルの背に似ていて、その一端の高い方は断崖が崩れて頭の形になり、その裾部は稲成川の浸食によって絶壁となり腹面をつくりあげています。その形がヒキガエルによく似ていることから蟾蜍岩と呼ばれるようになったとのこと。また、蟾蜍岩は昭和33年4月1日に和歌山県の天然記念物に指定されています。

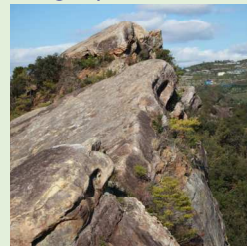


⑦岩屋観音 ひき岩群の岩屋に本尊の観世音が祀られているため、岩屋観音と呼ばれています。観音様から更に階段を登ると新西国三十三番霊場があり、ゆっくり歩いて1時間程度です。頂上付近の展望地からは、田辺の市街地や田辺湾、ひき岩群などが見渡せます。

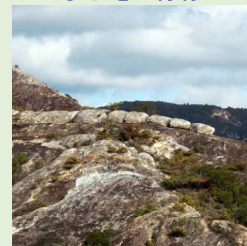


第二展望地周辺の奇岩

⑧三匹のカエル



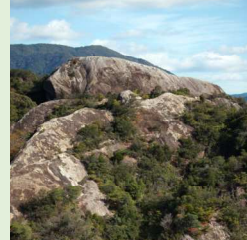
⑨恐竜の背骨



⑩獅子岩



⑪象の背

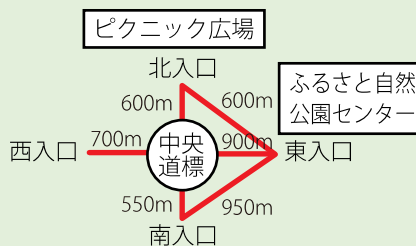


⑫トンピンタン

（荒光集落より臨む）



■自然観察路それぞれの入口からの距離



■ひき岩群で見られる植物

マツバラン カンアオイ ミズスギ モウセンゴケ

